



夷隅の森の子どもたち



文責 磯野 洋之

伝えることの大切さをしっかり

写真は先週行われた賞状伝達の 1 コマです。今では、賞状はパソコンで字体を選択し印刷が主流となりましたが、かつては賞状書士という資格を持った人が書いていました。誰が見ても美しい字体で賞状のように上手に文字が書けたらいいのに、と思った人もたくさんいたことだと思います。集会の後、私は子供たちに、このような話をしました。

それぞれの人生で一番多く書く文字は、自分の名前だと。両親や家族が、考えて・考えて…つけてくれた名前だから「丁寧」に書こうという話をしました。加えて、私も小 5・6 の担任の先生に、「気持ちが入っているかないかは、文字を見ればわかる」と、この様に厳しく叱られた経験を話しました。相手に通じれば言葉になり、相手が読み取れば文字になりますよね。



6 月の行事から

＊行事や活動の様子は、ホームページで紹介しています

歯磨き教室(3年)



正しい歯ブラシの持ち方や歯の磨き方を教わりました。

教育実習生来校(4年)



教壇に立つ夢に向け 1 か月間共に学びました。

薬物乱用防止教室(6年)



断ることが、自分を守ることになることを学びました。

読み聞かせ体験(1年)



本との出会いに興味津々です。

高齢者体験学習(2年)



助け合いの精神をしっかりと体験しました。

天気のアート(5年)



気象予報士さんから直接学びました。

読書習慣を身に付けましょう



本校には、図書室・教室・廊下にたくさんの本があります。子供たちも時間があれば読書にとっても熱心に親しんでいます。しかし、全国学力学習状況調査では、家での読書習慣がないと答える子供が多く、長文読解問題が苦手であるという傾向が出ています。町の本屋さんは激減しましたが 7 月 1 日には市の図書館がオープンします。茂原市には喫茶店が併設されている店舗もあります。通信販売のネットワークは内容の解説やランキング等も表示されてとても興味をそそります。本に出会うきっかけは、以前と比べると大きく変わりましたが出会うチャンスはたくさんあります。チャンスは「つかむ」のではなく「気づく」ものです。

夏休みに父母の書斎に新刊が…買い物ついでに本屋に…市の図書館に…